

2万3000人、風になる

湘南国際マラソン

友や子への思い抱え力走

第6回湘南国際マラソン（朝日新聞社など後援）が3日開かれ、約2万3千人が大磯町などの湘南海岸を駆け抜けた。

大会は午前8時47分、車いすの部でスタート。「湘南の風になってください」。

茅ヶ崎市在住の徳光和夫さんやタレントはるな愛さんらが激励する中、男女16人が疾走した。

約10分後に出発したフルマラソンには、参加者の8割近い約1万8千人が参加

し、スタート地点を全員が出るまでに30分かかった。

そのフルマラソンでは厚木市の村戸雄輝さん（31）が優勝。コーチを務めるランニングクラブの応援団約15

人がのぼり旗を立て並走する中、真っ赤なゴールテープを切った。人呼んで「日

本一速い鍼灸師」。例年、希望者が殺到し、すぐに申し込みが締め切られる湘南

マラソンの参加はあきらめていたが、クラブのメンバーが申し込み、初めて湘南海岸を走ったという。

「勝因はそもそも参加できたこと。これで負けたら後が怖いぞと気合が入りま

フルマラソンの上位入賞者は次の通り。

（大会本部発表、敬称略）

【男子】①村戸雄輝（厚木市）2時間25分48秒②生井怜（茅ヶ崎市）2時間28分28秒③宮村和樹（東京都）2時間32分32秒

【女子】①村松夏子（静岡県）2時間55分17秒②広石香里（横浜市）3時間5分45秒③佐藤寿枝（千葉県）3時間6分38秒



海風を感じながら走るランナーたち。大磯町、大友良行撮影

した」と、笑顔で語った。昨年9月に、当時1歳の3女に肝臓移植を行うため、ドナーとなった藤沢市の柳下利子さん（35）は移植者の部10キロを完走し、1位となった。生後7カ月で肝芽腫と診断された娘への移植に迷いはなかったが、手術直後から体力の低下に悩んだ。だが、移植を通じて知り合った病と闘う子どもたちのがんばりに負けたくない、出場を決めた。

「走る姿見せて感謝伝えたい」

石巻から招待の小田さん



小田尚貴さん（手前）は「海を見ながら走って良かった」と話した。大磯町

今大会では、東日本大震災で津波被害に見舞われた宮城県石巻市からJAIのまきの小田尚貴さん（31）が市民ランナー3人が招かれ、10キロを走った。「海のアたたかい側面が見られ、最高でした」。ゴール後、小田さんはすがすがしい表情で語った。平塚市と災害協定を結ん

でも忘れられない」と言う。職場では、多くの同僚やその家族が亡くなった。だが、東北人気質の職員らは誰もつらさを表に出さずに仕事に打ち込んできた。震災から8カ月。町の避難所は閉鎖され、がれき撤去も一息ついた。気持ちのゆとりができた小田さんは約5年前から趣味で始めたマラソンを10月に再開し、地元の大大会に出場した。この日は「練習不足で1時間を切れなかった」と悔しがったが「楽しんで走れた。心がリセットされた気分。復興はこれからだけど、一歩ずつ前に進んでいきたい」と話した。（毛利光輝）

「みんな笑顔キラキラ」

10キロの部で千葉真子さん



10キロの部には2003年のパリ世界陸上銅メダリスの千葉真子さん（35）が約5千人とともに参加。すれ

違うランナーに声をかけ、励まし合いながら約1時間でゴールした。千葉さんは「湘南の海もキラキラ、みんなの笑顔もキラキラですごく気持ちのいいマラソンでした」と笑顔で話した。

また、「マラソンは色々な距離で楽しめる。多くの人に挑戦してほしい」とマラソンの魅力をアピールしてPRした。（長谷川健）

ASA特別号外の申し込み2000人超す

会場では朝日新聞社と朝日新聞販売所（ASA）が、参加者の記念写真を載せた「湘南国際マラソン特別号外」を作成し、2千人を超える申し込みを受け付けた。5月に創刊した電子端末で読める「朝日新聞デジタル」もiPadを使っ